

日本の介護保険財政と地方分権改革

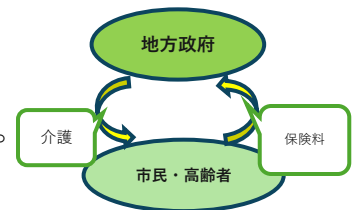
研究者プロフィール

- ・地域総合学部 政策デザイン学科 講師 市川 樹
- ・専門分野：財政学、地方財政学、社会保障論
- ・研究分野：介護保険制度財政
- ・所属学会：日本地方財政学会、日本財政学会
- ・主な経歴：横浜国立大学国際社会科学府出身

研究内容

戦後の日本の財政は、中央集権的であるといわれてきました。しかし、1980年代以降に社会が変化していく中で、地方分権が推進されてきました。

日本社会の大きな変化の一つとして、高齢化があります。高齢者が増えることで、介護が必要となることが多くなります。国が一括して高齢者介護の在り方を決定してしまえば、需要と異なるサービスになる可能性があります。そのため、地方政府が中心となって、介護保険を運用していく必要があります。介護保険が実際に市町村中心に運用されているのかを研究しています。



関連キーワード

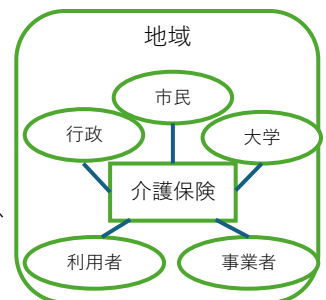
財政 地方財政 社会保障 行政 高齢者介護

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ他

今後、高齢化が進む中で、高齢者介護のあり方が地域の在り方に大きく影響すると考えられます。地域の課題として高齢者介護に取り組んでいく必要性があります。

介護保険制度の運用には、行政はもちろん介護サービス事業者、ケアマネージャー、介護保険料納付者（市民）、介護サービス利用者の方々です。こうした多様な人々との協力関係を考えることで、地域の発展につなげていければと考えています。

また、人材育成という観点からも、大学と地域の繋がりは有効だと考えています。



研究者への連絡先

- ・022-721-3329（個人研究室）